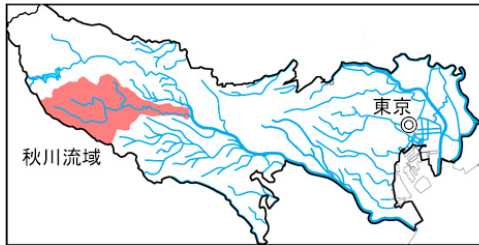


## 秋川流域河川整備計画の概要

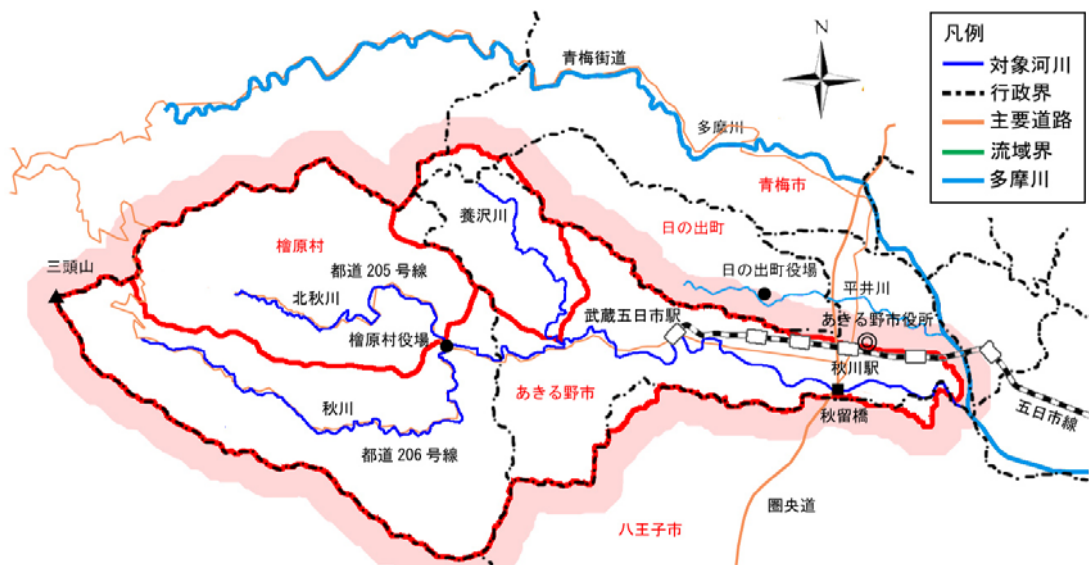
### ○秋川流域とは？

檜原村の三頭山（標高 1,531m）に源を発し多摩川に合流する秋川と、その支川である北秋川、養沢川の 3 河川の流域を秋川流域といい、その範囲は下図に示すとおりです。



対象河川の河川延長と流域面積

河川名	流路延長	流域面積
秋川	33.6km	104.9km <sup>2</sup>
北秋川	10.4km	46.2km <sup>2</sup>
養沢川	7.3km	19.2km <sup>2</sup>
計		170.3km <sup>2</sup>



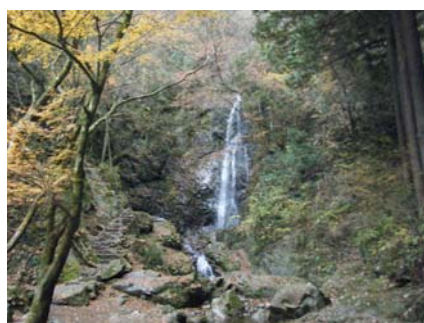
### ○流域の特徴

秋川流域は、「秩父多摩甲斐国立公園」「都立秋川丘陵公園」等の指定地域を含む自然豊かな地域であり、憩いの場・癒しの場として多くの人々に親しまれています。

秋川の中流から下流にかけては、広い河原が点在し、都心から多くの人々が訪れ、バーベキューや釣り、水遊びを楽しむことができる憩いの場となっています。あきる野市網代橋から檜原村におよぶ約 20km の範囲が「秋川渓谷」と呼ばれ、多摩川八景にも選ばれており、老若男女を問わず豊かな自然を満喫することができます。また、日本の滝 100 選に選ばれた「払沢の滝」をはじめ、東京都の天然記念物となっている「大岳鍾乳洞」や、「六枚屏風岩」など観光名所が多数存在し、都心から気軽に行ける景勝地でもあります。



川遊びでにぎわう秋川  
(佳月橋下流)



払沢の滝  
(日本の滝100選、多摩川50景)



六枚屏風岩  
(東京都天然記念物)

## 河川整備の目標

洪水に対する安全性を確保しつつ、豊かな自然環境が保全された、人々の憩いの場・癒しの場となる川を目指します。

### ○計画対象区間と期間

計画対象区間は、秋川、北秋川、養沢川の3河川全川です。

計画期間は、概ね20～30年を目標としますが、洪水の発生状況や流域の土地利用状況、自然環境等の変化等があった場合は、必要に応じて整備計画を見直します。

### ○河川の整備

#### 治水

…………… 洪水による災害の発生防止又は軽減

秋川流域は、下流の多摩川本川との整合を図り、秋川流域に戦後最大の被害をもたらした洪水である「昭和49年9月の台風16号」と同規模の降雨により発生する洪水流量を安全に流すことを目標とします。※

局所的に流下能力が不足している区間については、現況の河川形状を極力改変しないよう、現況の自然環境や親水機能に配慮しつつ、必要に応じて河床掘削や横断工作物の改築等により流下能力を確保していきます。

※「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(平成24年11月)では、多摩部河川の、目標整備水準を時間最大65ミリ降雨に引き上げることとしましたが、本計画の対象河川は、山間部という地形的な特徴から流域の多くが森林で占められ、渓谷状あるいは堀込河道の河川であるため大規模な浸水被害の恐れは小さいことなどから、整備方針の対象外としています。

#### 環境

…………… 河川環境の整備と保全

河川の流下能力確保や維持管理、災害対応等で局部的な整備を実施する場合は、生物の生息環境や景観に配慮し、聖牛や木工沈床等の伝統工法を取り入れ、瀬や淵のある多様性に富んだ流れを保全・創出していきます。

さらに、秋川に堆積した土砂の浚渫等についても、巨石を存置するなどの工夫をしつつ、地域の要望を踏まえて必要に応じて実施していきます。

また、生態系の面から見た河川の連続性を確保するため、魚道の機能を維持していきます。



引田橋下流の聖牛



魚道（ハーフコーン型）の事例